

## 令和4年第1回日向市議会定例会

# 一般質問通告書（傍聴者用）

◎新型コロナウイルス感染症の予防対策のため、議会を傍聴する際は以下のことに協力ください。

- ・「傍聴者カード」に(1)来庁日時、(2)住所、(3)氏名、(4)電話番号、(5)体温 を記入してください。
- ・「入口での検温」をお願いします。（※非接触赤外線体温計を使って検温します。）
- ・「咳エチケットの徹底」と「手指消毒液を使用」して、感染予防対策にご協力ください。
- ・「マスクを着用し、お互いに間隔を取って着席」してください。※マスクは各自でご用意ください。

質問日	質問順位	氏名	会派名又は政党名	ページ	
3月7日 (月)	午前	1	黒木 英和	市 政 会	1
		2	徳永 幸治	市 民 連 合	4
	午後	3	黒木 万治	日 本 共 産 党	6
		4	松葉 進一	新 志 会	8
3月8日 (火)	午前	5	西村 豪武	改 革 ク ラ ブ 結 い	10
		6	三樹 喜久代	公 明 党	13
	午後	7	柏田 公和	改 革 ク ラ ブ 結 い	16
		8	森腰 英信	市 政 会	18
3月9日 (水)	午前	9	友石 司	市 政 会	21
		10	富井 寿一	市 民 連 合	24
	午後	11	三輪 邦彦	市 民 連 合	26

[お願い]

- 議場内では、携帯電話等の通信機器の電源をお切りになるか、マナーモードにして、通話はしないでください。
- 本会議の様子はインターネットで中継します。傍聴席も中継映像に映る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※午前の開始は9時30分、午後の開始は1時からの予定です。

日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 14 番] 日向市議会議員 黒木 英和



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 1 番

内 容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>3月の今日のような日は、市長と教育長に、“図書館”と“子どもの読書”のこと尋ねてみよう。</p> <p>1. 今の図書館と未来の図書館を考えてみた。</p> <p>図書館についてあれこれ思い巡らせば、ワクワク感がじんと湧いてくるのはどうしてだろうか。良い図書館は、現代のせわしない日常から、少しだけ切り離された少しだけ非日常の場所にある。そこでは、良い空間と良い時間と良い本と良いトイレが用意され、私たちは、開放感、高揚感、癒し、安らぎなどここでしか味わえない感覚を五感で享受する。少なからず市政に関わる私は、図書館を真ん中に置いたまちづくりに限りない可能性を夢見る。良い図書館がわが街を発展させるだろう、と予言に似た信念を持っている。</p> <p>新しい図書館を想うことはとても楽しい、と同時に冷たい慄きを伴う。建物の寿命を50年と考えれば、日向市の今後50年を占うものにもなるから。市民に活力と教養と郷土愛をもたらすシンボルになるか、それとも本を貸し出す為だけの味気ない大きな本棚になるのか。もちろん市民統合（市民をまとめる象徴として）の憩いの場となり、文化の薫る発信源となるべきである。</p> <p>私の結論：本市誕生以来、勃興期から発展期にかけて賑わいの中心地であった新町地区から、熱量を帯びた活気が失われて久しい。様々な文化活動はもちろんのこと、賑わいを生む経済活動をも包摂する多機能図書館の建設は、中心市街地活性化への最大にして最後のチャンスである。</p> <p>(1) ハード面から以下を尋ねる。</p> <p>① 図書館の建て替えについて、以前、他議員の一般質問(令和2年2月議会)の回答に「複合化、多機能化の視点で検討していくことが必要」との答弁があったが、その後どのような検討がなされ、具体的なイメ</p>	<p>市長 教育長</p>

ージをどのように持たれているか。

- ② 計画時期、建て替え時期について検討はされているか。
- ③ 建て替えの場所について検討はされているか。
- ④ 図書館を前面に押し出したまちづくり構想として、「本館」を市街地中心部に、「分館」（例えば、まんがを中心に貸し出すまんが館）を日向市駅構内及び高架下につくることにより、区画整理された商店街と連動することができ、再び人の流れが生まれる地帯（新しい新町地区）が再構築されると考えるがいかがか。
- ⑤ 運営形態について、直営・公設民営・民間との共同運営など、検討はされているか。

(2) ソフト面から以下を尋ねる。

- ① 今般のコロナ禍における図書館運営の状況は、コロナ禍以前と比較してどう変化したのか。（開館日数・来館者数・貸出数・職員体制・年間運営費・図書購入費等）
- ② コロナ禍の影響が出ているところがあれば、分析と対策をどのようにされているか。
- ③ 来館者に本を取ってもらう仕掛けづくりは、図書館職員の腕の見せ所である。具体的にどのような意図を持って、どのような取り組みをしているか。
- ④ 明らかに貸出履歴のほとんどない本、あるいは時代の経過のなかで価値を失った本が陳列されている。文学を例にとつていえば、第一級の作家、詩人の著作を置くべきと考えるが、書架に並べる本と書庫に納める本の選定はどのようになされているのか。
- ⑤ 数に限りのある新刊書の購入について、裁量権は誰にあり、いつ、どの様に行っているのか。
- ⑥ 電子書籍導入への検討はなされているか。

2. 子どもの読書と学校図書室を考えてみた。

令和2年12月議会での一般質問において、“子どもが読むべき本は”との質問への回答で、教育長は“私の手法は紹介や推薦はできるだけせずに、「その本のおもしろさや内容を、いかに興味深く伝えるかということである。」「私たちの役割は、読みたくなるように、子どもたちの心に火をつけることだとおもっている。」と答弁された。それでも『広報ひゅうが』にて、一度だけおすすめの本として、藤原和博「10年後、君に仕事はあるのか」、吉野源三郎「君たちはどう生きるか」を推挙されている。

因みに先の一般質問で、私は自信満々に宮沢賢治の童話集（最適は「銀河鉄道の夜」）、谷川俊太郎の詩集（最適は「二十億光年の孤独」）、まんが日本の歴史シリーズ、の3冊を推挙させて頂いた。

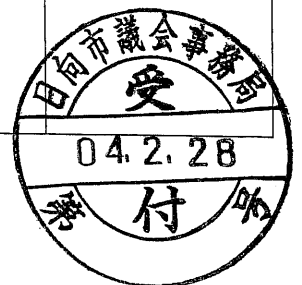
市長  
教育長

私が考える、子どもにとって最良の読書とは、興味本位の自由な読書のみならず、普遍的な価値をもつ古典や数十年単位で読み継がれている準古典を読むことである。100年前の子どもたちが読み、また100年後の子どもたちも読むであろう本を、現在の子どもたちに読んでもらいたい。そのため図書室や教室、授業や学級だよりなど、多くの場と手段を利用して、厳選された必読書を奨めることは意義あるものと認識する。と同時に活字に馴染みのない児童のために、まんが本から入り、熱中できる分野の名著へと通ずる道すじを作るべきではないだろうか。

私の結論：読書とは時間と空間を超えて旅をすることである。旅のなかで子どもたちは、人間の何たるか、自然の何たるかの端緒を捉え、人間形成していく。その入口で好奇心を持たせ、初めの一步を優しく導いてくれるのがまんがである。まんがから古典名作へ！

このような立場から以下を問う。

- (1) 学童期、青年前期に読書をする意義と必要性をどのように考えているか。
- (2) おすすめ本2冊の推奨理由と、他に読んでもらいたい本があれば伺う。
- (3) 本市学校図書室のユニークな取り組みがあれば紹介して頂きたい。
- (4) 小中学校の全児童・生徒を対象として、図書室に行って本を読む機会をつくるなどの、読書時間を確保する取り組みはされているか。普段読書習慣がない児童・生徒にとっては大変有意義であると考えます。
- (5) 教育ツールとしてのまんがの必要性、重要性、活用方法についてどのように考えているか。
- (6) 学校図書室には現在どのようなまんが図書があるか。おおよその蔵書数と著名なものがあれば、作品名と作者も併せて教えて頂きたい。
- (7) 学校図書室のまんが図書を増やし、目立つところに様々な分野の入門まんが版やイラスト豊富な本を陳列して、普段読書をしない子どもにきっかけを与えてはどうか。



日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 8 番 ] 日向市議会議員 徳永 幸治



発言（一般質問）通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 2 番

内 容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>新型コロナウイルス感染症への対応について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の第6波ではウイルスの数度の変異があり、重症者・死亡者は第5波より多くなっており、一説には、ワクチン接種により自己免疫力が落ちた為ではないかとも云われています。</p> <p>令和元年から令和4年の日向市の死亡数を調べてみましたが、令和4年1月の死亡者数は初めて102人という驚くべき数字となっている。</p> <p>1市2町2村でも火葬の件数153件という驚きの数字になっている。</p> <p>高齢者へのワクチン接種が開始されておよそ半年になります。ワクチン内の成分については、磁性体金属の水酸化グラフェンが含まれていることが懸念されます。</p> <p>2月23日付けの日本経済新聞の意見広告で、未成年者のワクチン副反応疑い1,606人、そのうち重篤者387人、後遺症8人、死亡者5人と載っていました。今回のワクチンについては安全性が確認されていないとの話もあります。</p> <p>また、コロナ禍による物価上昇が年金暮らしの高齢者を襲い、さらには、ガソリン価格の高騰から食糧費も上がり市民の生活は苦しさを増しています。</p> <p>このような状態でも体育館建設は進められており、コロナ禍での財政投資にいささか疑問を感じざるを得ません。</p> <p>そこで以下の点について質問します。</p> <p>1 今回のオミクロン株によるコロナ感染者はまさに爆発的な感染増となっているがワクチン接種者にもかかわらず感染していると聞いている。このような状態でもブースター接種を推進するのか。</p> <p>2 新型コロナウイルスの感染症上の位置付けを、2類から5類に変更する見直し論が出されている。今回のオミクロン株は規制緩和の動きも出ているが、変更案についてどう考えているのか。</p>	<p>市長 教育長</p>

- 3 5歳以上11歳以下の子どもたちへの接種においては、基礎疾患のある子どもを優先的に接種することだが、副反応・死亡者が出た場合はどのような補償をするのか。
- 4 今回のワクチン接種では妊婦にまで接種したと伺った。  
病院でもらう薬には必ずと云っていいほど、妊娠中の方は服用しないようにと注意書きがある。何を根拠に安全としているのか。
- 5 第5波では日向市の感染者が異常なほど増加した原因の一つは、自宅療養による家庭内感染が原因だとも云われている。  
東郷病院を無床診療所にして隔離できなかった為ではないか。  
今後の対応について問う。
- 6 第5波では感染者の激増等により日向市の一般質問は中止となった。  
新聞報道や市民からのお叱りの声もあったが、これらについて当局の総括はどのようなものになったのか。
- 7 コロナ禍により物価上昇がやむ気配がない。年金暮らしの方や生活保護者も含め全市民が生活苦にあえでいる。ガソリン価格の高騰は市民の生活を圧迫している。ましてやロシアのウクライナ侵攻により原油価格が一段高くなるとも言われている。市民への支援策等は考えているのか。
- 8 コロナ禍で市民の生活が苦しくなっている。しかしこのような状態でも体育館建設計画は進行している。  
市民の声を聴くと、概算事業費約42億円についての批判の声も聞かれる。コロナ禍が落ち着くまで待てないのか。



日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 19 番 ] 日向市議会議員 黒木 万治



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 3 番

内 容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>岸田政権の16ヶ月予算（補正+当初）と地方財政について。</p> <p>1 コロナで疲弊した暮らしと営業の苦境を救うにはほど遠く、大企業と軍事費に大盤振る舞いの予算となっているが、どのように認識しておられるか問いたい。</p> <p>2 政府の個人向け現金給付は、コロナで困っている人への支援が「住民税非課税世帯」と限定され、困っている人全員に届いていないと思うがどうか。</p> <p>3 「事業復活支援金」の予算規模は、去年の「持続化給付金」の実績の半分以下ではないかと思うがどうか。</p> <p>4 看護と介護、保育などの職員の賃上げ（処遇改善）は、あまりに不十分ではないかと思うがどうか。</p> <p>5 ガソリン、灯油、食料品、日用品の値上がりが続く中で、年金を0.4%消滅する理不尽が際立っているが、年金生活者に対してあまりにひどい予算だと思うがどうか。</p> <p>6 地方一般財源を見ると、地方税収の増と地方交付税の代替措置である「臨時財政対策債」が大幅に減っているが、このことについてどう見ているのか。</p> <p>7 「地方創生臨時交付金」について、本市でのコロナ禍における住民要求実現は確保できると言えるのか。 また、今後の実施計画の中身はどう考えているのか。</p>	<p>市長 教育長</p>

8 オミクロン株感染拡大のもとでの新型コロナ対策について

(1) 医師会と協力し地域の医療体制の確保、自宅療養者への食料や日用品の配布体制の整備、また、県との情報共有は万全なのか。

(2) 人工透析患者に対する3回目ワクチン接種、および陽性となった場合の受け入れ体制について確認をしておきたい。

(3) コロナ関連の給付金に対して、所得税、法人税の課税対象となっているが、これらはコロナ災害に対する「見舞金」としての性格と理解すべきで、コロナの影響を大きく受けている中小業者に対して、さらなる重税とならないよう、地方税法第6条を発動してでも対応すべきではないか。

9 「気候危機」としての「地球温暖化対策推進法」によって、「地方公共団体実行計画」の策定が義務化されているが、全国で「事務事業編」は9割、「区域施策編」は市町村で3割、3分の2が未策定と言われている。

要因として、職員不足、専門的知識の不足、策定済みであっても、計画内容が時代遅れ、目標が低すぎる、計画は策定したが実行しないなど、いろいろあるようだが、本市の取り組み、現状について問いたい。





日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 6 番] 日向市議会議員 松葉 進一



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 4 番

内 容 （ 具 体 的 な 質 問 事 項 ）	答弁を求める者
<p>1、令和4年度の市政の基本方針について</p> <p>本市におけるコロナ禍は経済、市民の暮らしなどに深刻な影響をもたらしている。合わせて、昨年10月からの諸物価等の相次ぐ値上げが、市民生活を更に厳しいものとしている。</p> <p>厳しい状況の中、令和4年度市政の基本方針が示された。</p> <p>以下を問う。</p> <p>(1)「令和4年度の予算編成と行政運営の基本的な考え方」で、「一般財源をいかに確保していくかが大きな課題である」としているが、課題解決の着眼点は何か。また、コロナの状況下で取り組む最優先施策は何か。</p> <p>(2) 疲弊しきった市民の暮らしを立て直すための対応の一つとして、ワクチンの接種が不可欠であると言われている。3回目の接種が始まっているが、実態と今後の取り組みについて問う。</p> <p>(3) 児童の感染が拡大しているが、児童へのワクチン接種の今後の対応について見解を問う。</p> <p>(4) 令和3年度「新型コロナウイルス感染症による影響に関するアンケート調査」での、各業種の売り上げ比較(令和3年/令和2年)の結果では、事業者の全体の60.9%が減少していると回答している。</p> <p>コロナ禍での各種支援が出されているものの厳しい実態となっている。</p> <p>本市経済の根幹を成す事業(者)であることを考慮すると、今後も、本市独自のきめ細かい対応・支援が望まれるがどうか。</p> <p>(5) 産業振興の中で、企業誘致と雇用は極めて重要な位置関係にある。</p> <p>企業誘致のための現状と今後の取り組みについて問う。</p> <p>また、「第2向日向市総合計画・前期基本計画 総括成果報告書」の「企業誘致推進」では「今後の方向性として、新たな工業用地の掘り起こしを進めるとともに、内陸型工業団地の事業化に向けた検討を行う」とあるが、検討の進捗状況について。</p> <p>(6) 人口減少に歯止めをかけるために、令和2年度の合計特殊出生率の目標値を1.89と設定したが、結果的には1.81と下回った。合計特殊出生率</p>	<p>市長 教育長</p>

が下回った要因と今後の向上策について問う。

また、人口減少対策の一環としての移住・定住促進の取り組みは、一定の成果が出ているので、今後の施策に期するものは大きいですが、令和3年度の移住者に対するアンケート調査の中で、本市に対する期待として「子育て環境が充実していること」が全体で大きなウエイトを占めている。

このことも踏まえ、アンケートの結果を今後どう反映していくのか問う。

(7)ふるさと日向市応援寄附金事業は、財源確保を担う唯一の「稼げる」事業で、地域の活性化にも大きく寄与している。

コロナの状況下での「巣ごもり」需要を更に掘り起こし、令和6年度に目標としている10億円を、大幅前倒しで達成する事が財源確保の観点から、極めて重要であると認識するが、見解を問う。

## 2、林業の振興策について

去る2月18日に産業建設水道常任委員会で、耳川広域森林組合(組合長他幹部3名)と意見交換会を行った。

組合側から、管内における木材市場の動向、植林の実態など説明をうけた。

現状の取り組みの中で、後継者問題、再造林関係、林道の整備、労働力の不足、コンテナ苗などの取り組みに対する課題について、支援の在り方などの意見が出された。

以下を問う。

(1)これからの林業振興策には「伐って・使って・植えて・育てる」といった「循環型林業システム」の構築の必要性が求められている。システム構築のためには、国、県の補助活用を含め、本市独自の再造林等に対する支援策も必要であると認識する。今後の支援の在り方について問う。

(2)また、長年懸案事項となっている耳川木材加工団地の水道敷設の要望も出された。本市の見解を問う。

(3)「第2次日向市総合計画・前期基本計画 総括成果報告書」の、「森林資源の保全と活用」の中で、「耳川広域森林組合と意見交換会を行い、森林経営計画に基づく計画的な森林整備を支援した」とあるが、その内容と今後の取り組み及び、支援策について問う。

## 3、道路反射鏡(カーブミラー)の設置の基準について。

交通事故防止のために、道路反射鏡の設置を要望する市民が多いが、設置の基準に沿わないのか、ほとんどが設置されない。

今年度を実施した高校生との意見交換会で、通学路の危険防止の対応として、メインの通学路となっている2か所に道路反射鏡の設置の要望があった。

このことを踏まえ、担当する2地区の区長さんが担当部署に設置の依頼をしたものの、2件とも却下されたとの報告をいただいている。


道路反射鏡の設置の基準について問う。

市長  
教育長

市長  
教育長



日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 12 番 ] 日向市議会議員 西 村 豪 武 

発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、  
会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 5 番

内 容 （ 具 体 的 な 質 問 事 項 ）	答弁を求める者
<p>1. ウイズコロナとアフターコロナ等に対応した行政運営について。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が今後も繰り返し流行し、長期化が懸念される観測もあり、更には住民生活も非日常化し、全てに価値観の変化等が出てきている。コロナ禍以前からの気候変動、人口減少、デジタル化などの変化の対応に追われている途中にあって、コロナ禍は過去の政策・行政手法では対処しきれない事態も散見され、社会・地域の課題に対する政治や行政の弾力性・機動性不足も表面化し、行政文化の軌道修正を含め、行政運営の在り方も大幅な改革の必要性を迫られていると感じている事から、以下について問う。</p> <p>(1) ウイズコロナにおける行政の喫緊の課題は何か。また職員のモチベーションの維持・向上はどの様に取り組むのか問う。</p> <p>(2) アフターコロナにおける「持続可能な社会」等の取り組みについて問う。</p> <p>① 自主財源確保の在り方について、具体的な対応等は如何に。</p> <p>② 行政コスト縮減の取り組みについて、民間活力の導入など一般論として「行財政改革」が示されているが、具体的な取り組みを問う。（前年策定の「第2向日向市行財政改革大綱」やその「実施計画書」に沿った対応では、初期の目的にほど遠く、コロナ禍の中では手ぬるい対応にしか見えない。この際、見直しも考えて対応すべきではないだろうか。）</p>	<p>市 長 教育長</p>

③ 地域の中小零細企業、地場産業等の現状認識と、疲弊した地域産業をどの様に再生させるのか問う。

「政府の資金繰り支援」等の成果もあり、倒産件数は史上まれにみる低さだと云われてはいるが、先ごろオミクロン株によるまん延防止等重点措置に伴う飲食店など「酒類提供の終日停止の要請」が本県だけ継続との報道があり、県北の酒店からは「なんでや」との苦情が殺到し、返答に困った。又、限られた一部の業態で「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」等の恩恵が受けられた事業者は別として、一般小売酒店を問わず、これまで懸命に頑張ってきた事業者等からは偏った支援策への不満や、今後の事業運営に先が見通せず心配だとの声が日増しに大きく聞かれる昨今である。行政としてどの様に独自の支援策等の取り組みがなされるのか問う。

2. 令和4年度市政の基本方針について。

(1) 活力を生み出すにぎわいづくり戦略「新たな人が集まる魅力づくりプロジェクト」のお倉ヶ浜総合公園野球場等の整備については、満足度の高い施設整備に向けて着実に取り組みたいとの事、関係団体との意見交換を行いながらとあるが、全体像が見えない。具体的な整備内容は如何になされるのか問う。

(2) コロナ禍で影響を受けた地域経済の活性化が謳われているが、平成29年度策定の第2次日向市総合計画の「新総合体育館の整備」はコロナ禍以前の計画の延長で対応されて来たもので、「日向市総合体育館整備基本計画」素案において、概算事業費約42億円(税込)の見込みとされている。前問(2)アフターコロナの取り組みに照らして、経済活動の落ち込みによる市税収入の減少も予測され、財源確保等にも懸念がある。「お倉ヶ浜総合公園」の施設充実を図る中で、南海トラフ地震・津波災害対応策も含め、市民生活や地域経済の活性化に主眼を置き、建設場所の変更や規模縮小等の英断をなすべきではないのか問う。

市長  
教育長

3. 「消費税の適格請求書等保存方式（インボイス制度）」における行政の対応について。

市長  
教育長

- (1) 総務省から「地方公共団体等での事業者の立場からインボイス制度への対応の必要性から、庁内関係部局（財政、出納、公営企業、行政改革関連部局等）との連携等を図りながら準備を進めること」との依頼が令和3年6月1日付で送付されている。

インボイスは現在の区分記載請求書、登録番号、適用税率、消費税額等の記載が追加され、請求書様式の改正や、請求書発行システムや機器の改修等が必要となることなどにも留意する必要がある、事業者への広報、周知も依頼されている。国税庁からの「～インボイス制度理解の為に～」という冊子が、公益社団法人宮崎県北法人会や日向商工会議所等から事業者宛てに配布されているが、情報共有も含め、本市の特別会計を含めた担当者研修や市内事業者等への取り組みはどの様になされているのか問う。

- (2) 令和5年10月1日の制度開始に向け、第一次産業等の小規模事業者やフリーランス等への対応について問う。





発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 6 番

内 容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>1. 新型コロナウイルスの影響について（SDGs目標3、8）</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症第6波で、日向市内の保育施設を含む学校・教育施設、高齢者福祉施設でも感染の拡散が見られるが、状況について問う。</p> <p>(2) 保育園が休園などすれば、多くの保護者は仕事を休まざるを得ない。また子どもが、新型コロナウイルスにかかったり、濃厚接触者になったりして、小学校などが休みとなれば、家族も仕事を休まざるを得ない事態となり、家計への影響が懸念される。支援策、相談窓口の周知について問う。</p> <p>(3) まん延防止等重点措置が定める飲食店中心の感染防止策は、「実態に合わない」として、各地の知事から見直しを求める意見が相次いでいるとのことだが、市長の見解と、支援金の公平性についての国・県の政策をどのように感じているのか問う。</p> <p>(4) 18歳以下の子どもへの10万円給付が届いていないケースがあると聞かすが、日向市の給付の状況と、基準日（昨年9月）以降に離婚をして受け取れなくなったひとり親家庭や、DVで避難して受け取れなかった世帯などの給付の状況についても問う。</p>	<p>市 長 教 育 長</p>
<p>2. 新しい体育館の建設規模・建設場所の考察について（SDGs目標3、12）</p> <p>現在の体育センター及び武道館の老朽化・耐震化への必要性には多くの市民が理解を示している。「日向市総合体育館整備基本計画（案）」も発表されたものの、コロナ禍により市民説明会も十分行えず、今もなお、市民から新しい体育館の規模、建設場所に対する理解が深まらない。「将来にわたって子どもから高齢者まで広くスポーツに親しむことができる環境を整備する」との市の意向を再度明らかに示されたい。</p> <p>(1) 新しい体育館の規模について、①公共施設マネジメント面、②厳しい財政面、③将来の人口減少面、④ライフサイクルコスト削減面か</p>	<p>市 長 教 育 長</p>

らの計画を問う。

- (2) 新しい体育館の建設場所について、①東郷地域、平岩地域などの建設予定地から遠い市民の利用について、②街なかの活性化の貢献について、③市民プール解体の代替策について問う。

3. 子宮頸がん予防ワクチンの定期接種について (SDGs目標3)

- (1) 子宮頸がんの原因である「ヒトパピローマウイルスの感染」を防ぐHPVワクチンについて、国は2013年6月に、積極的な接種勧奨を差し控えるとしたため、多くの自治体が対象者への個別通知をやめてしまい、70%近くあった接種率が、1%未満にまで激減した。国は、令和2年10月と令和3年1月の2度にわたり、ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種の対応および対象者等への周知について事務連絡をし、市町村にHPV定期接種対象者への情報提供の徹底を求めた。これに対する本市の対応を問う。
- (2) 4月から積極的な勧奨を差し控えている状態を終了する。平成9年4月2日から平成20年4月1日生まれで接種勧奨の差し控えにより、HPVワクチンの接種機会を逃した方々について、令和4年4月1日から令和7年3月31日までの間において、定期の予防接種の対象者とする事とする救済接種(=キャッチアップ接種)がほぼ決定している。キャッチアップ接種の対象者は、理想的な接種時期を過ぎており、速やかな周知が必要だが今後の取り組みについて問う。

市長

4. 地籍調査の遅れが将来に及ぼす影響について (SDGs目標10、15)

地籍調査の遅れ解消に対する市民の強い要望が増えている。若い次の世代が、自分の資産の中に山林があっても、場所も境界も知らないことに今後大いに危惧している。

- (1) 日向市の地籍調査を必要とする宅地、農用地、林地の割合を問う。
- (2) 日向市の進捗率は、宮崎県26市町村中、最下位の西都市に続く38.1%で、宮崎県平均71.0%、全国平均52.0%にもほど遠い。昭和51年から平成22年の間休止していた理由と、この状況を現市長はどう捉えているのか、調査が進捗しない要因について再度問う。
- (3) 平成31年4月より、経営管理が行われない森林を市町村自らが適切に管理することができる森林経営管理制度が始まった。また、令和6年までに施行される相続義務化が、所有者不明土地問題に解消の道筋をつけると言われている。地籍調査の遅れが、これらに及ぼす影響について問う。

市長

5. 災害時の避難所のトイレの環境整備について (SDGs目標3、6)

- (1) 地方創生臨時交付金を活用しながら、小中学校等のトイレの洋式化

市長  
教育長

に努めているが、文部科学省が、2025年度までに避難所に指定されている全学校に整備目標を発表している。見通しと、バリアフリー化、防災機能の強化などの観点で、改修工事に組み入れられているのか問う。

- (2) 災害時に避難所として開設する公共施設の空調設備工事や洋式トイレへの改修工事の整備目標と進捗状況を問う。
- (3) その他簡易トイレなどのトイレの考え方と、備蓄目標について問う。





日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 11 番] 日向市議会議員 柏田 公和



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 7 番

内容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>1 令和4年度 市政の基本方針から 「第2次日向市総合計画・後期基本計画」に基づき、コロナ禍の中でも着実に日向市の経営を担っているものと理解する。以下3点について問う。</p> <p>(1) 「日向市」という自治体を経営している感触は如何か。併せて「日向市」の強み、弱点は何か問う。</p> <p>(2) 県内全市町村の自治体経営、教育行政で参考とすべき政策・事業の展開などについて市長、教育長の見解を問う。</p> <p>(3) 未来につなげる人づくり戦略を最優先の課題として取り組むとのこと。人づくり戦略を推進する中での課題や、関係する施策・事業を展開する中での問題点、市民に期待する動きなどについて市長の見解を問う。</p>	<p>市長・教育長</p>
<p>2 市民に分かりやすい情報発信とは</p> <p>(1) 令和4年度予算編成の基本的な考え方で、「限られた経営資源の効率的・効果的な活用による慎重な財政運営が求められる」と整理されている。市民目線で考えたときに、市民に分かりやすい情報と言えるのか、具体的な事例等を織り込んだ情報が必要ではないかと思うが市長の見解を問う。</p> <p>(2) 今、市民が知りたい情報は、総合体育館の整備計画、お倉ヶ浜総合公園野球場の整備計画、図書館をはじめとした公共施設の老朽化対策等の整備計画など、多額の財源が必要となる複数の事業が、どのような工程で整備されていくのか、優先順位決定の背景等含めた政策決定段階の情報ではないのかと思う。市民が知りたい情報発信のレベルをどう認識しているのか問う。</p>	<p>市長</p>
<p>3 地域防災計画推進の現状認識と課題解決の取り組みは 令和4年2月22日に日向市防災講演会が開催され、オンラインで配</p>	<p>市長</p>

信された。冒頭の挨拶で、市長が1月22日に発生した日向灘を震源とする地震に触れ「地域での自助・共助による防災対策が重要になってくる」と発言されていた。講演された2名の講師の内容も踏まえ、以下6点を問う。

- (1) 震度4を記録した地震発生直後の市当局の対応状況は如何だったのか、市長として一番心配したことは何だったのか問う。
- (2) 今回は津波の心配がなかった分助かった一面もあるが、地震終息後の庁内での「地震の振り返り」等の議論はどうだったのか、浮上した新たな課題等はなかったのか問う。
- (3) 各地域の避難場所の整備等が喫緊の課題と認識するが、市内全域での避難場所における問題点等の把握の実態は如何か問う。
- (4) 「地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを」、「減災に必要な男女共同参画の視点」という講演を受け、日向市として防災分野での男女共同参画の取り組みの現状を伺う。
- (5) 講師の1人は、居住している自治体の現状として、大規模災害時での直接的な人的被害(死亡・大けが)を防ぐことで目一杯であるとの発言であった。日向市の現状として、災害関連死を防ぐ取り組みの現状は如何か、具体的な取り組み事例があれば伺う。
- (6) 各区での自主防災計画策定段階でも、地域で暮らす人々の多様性への理解が必要になるとの講演を受けた。地域で暮らす高齢者、障がい者、子ども、傷病者、外国人等に接する場合のノウハウ等の整理は区単位では厳しいのではないか。市役所内の関係する各課の連携のもとに対応マニュアル等が策定できないものか問う。

#### 4 子どもたちに伝える防災教育の現状は

- (1) 1月22日に発生した、震度4の日向灘を震源とする地震、多くの子どもたちは初めての体験だったのではと思う。この地震体験をどう活かして教育現場での防災教育に波及させていくのか、教育長の見解を問う。
- (2) 南海トラフに起因する地震・津波災害の発生が予測される中で、教育現場の防災教育推進に向けて、取り組み体制の現状認識は如何か。課題となる要因や、その解決に必要な経営資源(ひと・もの・金・情報・時間)の認識は如何か、教育長の見解を問う。

市長・教育長



日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 16 番] 日向市議会議員 森腰 英信



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 8 番

内 容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>1 「現在（いま）」を意識した政治を求む</p> <p>一旦は収まりかけたように見えた新型コロナウイルスも、オミクロン株の出現により全国的に感染が拡大し、本県もまん延防止等重点措置の適用を余儀なくされ、経済は疲弊し、多くの方々が逆境の中にある。</p> <p>そのような中、新年度の予算編成がなされるが、基本的な考え方として「コロナ禍の影響による財源不足や新たな財政支出の想定」「限られた経営資源の効率的・効果的な活用による慎重な財政運営」が謳われている。</p> <p>このような時だからこそ、「現在（いま）」を意識し、俯瞰的・長期的な視点で物事を捉え、危機感を持った市政運営が望まれる。</p> <p>そこで以下を問う。</p> <p>(1) コロナ禍の影響により、飲食店のみならず多くの企業、家庭が困窮の中にある。</p> <p>国からの交付金に応じた助成以外に、本市独自の更なる支援を求める声は少なくないが、東郷診療所建設やお倉ヶ浜総合公園野球場整備といった、ビッグプロジェクトも待ったなしの状況で、財政の逼迫は避けられない。今こそ何が最も重要なのか、政治判断が迫られる時である。</p> <p>そこで、</p> <p>① 今回示された「新型コロナウイルス感染症経済対策等」について多様な支援を掲げられているが、「箱モノを作る予算があるなら支援を」との声を聞く。市長の見解を問う。</p> <p>② 財源不足の中、日向市総合体育館整備事業が粛々と進められているが、「現在（いま）」急いで進めるべきか、疑問である。前述したビッグプロジェクトも控える中で、改めて3事業の総費用とスケジュール、優先順位を示されたい。</p> <p>③ 中長期課題として多額の費用を要する「公共施設マネジメント」があるが、コロナ禍でより一層深刻さが増すと危惧する。</p>	<p>市長 教育長</p>

今後の考え方を問う。

④ 全員協議会で 2031 年までの財政シミュレーションの説明を伺ったが、不安は払拭されない。市長の見解を問う。

(2) 今回のオミクロン株は感染拡大しやすい特徴があり、若年者や小児での発症例も急増している。

本市でも、多くの子どもたちが感染しており、学校や幼稚園、保育園等が閉鎖されることにより生じる多くの課題を、スピード感をもって解決しなければならない。

そこで、

① 小中学校の臨時休業等や欠席することに伴う学業の遅れをどのようにカバーしていくか問う。(各学校・各個人への対応)

② ある自治体では、自宅でのインターネット環境が整っていない小中学生にモバイル Wi-Fi ルーターを貸し出している。

リモート授業開始のために、本市でも検討できないか問う。

③ 「感染者があたかも悪者である」という風潮がある中で、教育現場でどのような指導をしているか。また、いじめに繋がる事案はないか問う。

④ 休校や休園により、休職や退職を余儀なくされた保護者への相談体制、支援策があれば問う。

(3) 本年 1 月 22 日に発生した日向灘地震には、多くの方が恐怖したと思われる。特に障がい児・者を抱える家庭や、一人暮らしの高齢者の方々などは、避難することなどを考えると尚更である。

市長も「常在危機の意識をもって防災対策を進める重要性」に言及しているものの、以前より懸案の避難行動要支援者の個別計画が一向に進まず、不安を募らせている方も多い。

そこで、

① モデル地区となった 3 地区の問題点と、今後の取り組みについて問う。

② 名簿の中より最優先する方を選別し、行政主導で計画作成が出来るか問う。

③ 現在の福祉避難所は、実際被災した時に機能するのか疑問である。最優先者の福祉避難所事前登録制や直行が出来ないかを含め、考え方を問う。

## 2 本市に共生型デイサービスの拡がりを

昨年末、市内に共生型デイサービス施設が開設された。居場所の少なさが問題となっている、重症心身障害児者や医療的ケア児者にとっては、まさに希望の光である。

しかしながら民間でこのような事業をするには、金銭的にも負担が大

市長

きく、事業の拡がりを考えるなら、何らかの支援が必要ではないかと考える。

先行している富山型デイサービスを参考に、昨年成立した「医療的ケア児支援法」に絡めた支援が出来ないか問う。

### 3 「地域おこし協力隊」の有効活用を

都市部から過疎地へ移住し、活性化に取り組む「地域おこし協力隊」制度が発足して、12年が経過した。

総務省も、新型コロナウイルス感染拡大で地方移住への関心が高まっていることもあり、隊員数を大幅に増やす計画である。

本市では、過去数人の隊員の方が従事されていたが、根付いていないのが現状である。

そこで、

- (1) 地域おこし協力隊の有効活用を庁内で議論しているか伺う。
- (2) 過去の反省を含めて、総括しているのであれば伺う。
- (3) 民間で新しい事業を起こすとき、「隊員が業務の一部を担ってくれたら有難い」との声を聞く。

そのような声を集約し、希望に沿った募集をしてはと考えるが如何か。

市長



日向市議会議長 黒木 高広 様

[ 15 番 ] 日向市議会議員

友石 司



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 9 番

内容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>行政のデジタル化の進め方について</p> <p>コロナ禍において、様々なことのデジタル化が加速しています。その、デジタルの先端技術がもたらす恩恵をどう効率よく活用するのか。</p> <p>また、光あれば影ありで、新たな課題も生まれてくると思います。その中でも組織改革や業務改革及び制度改革は、これからの様々なデジタル化においてとても重要なことであると認識します。</p> <p>これまでのアナログベースで培い構成された、組織の構造や業務過程と考え方など、IT系の組織とは異なる中で、今の形態の中に情報、人工知能、IoT(モノのインターネット)などの高度専門技術を落とし込んでアナログ+デジタルといった構図になるだけの結局は負担増大になるのではないのでしょうか。</p> <p>そこで私は、具体例や問題点などを提示しながら、デジタル化により得られる恩恵を無駄なく効率的に生かすために、組織改革や業務改革及び制度改革の必要性を以下に示しながら質問を進めてまいります。</p> <p>1 デジタルを活用した地域課題の解決</p> <p>延岡市がスーパーシティ/スマートシティと言われる、デジタルからのアプローチによる「市民力」を軸とした街づくりに取り組もうとしていますが、このような他自治体のデジタル化への加速感に関しての考え方や、本市としての捉え方を伺います。</p> <p>デジタル化三原則として以下の3つの要素を踏まえた、市民サービスのデジタル化への可能性やスマート自治体への認識や展望もお尋ねします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルファースト(個々の手続き・サービスが一貫してデジタルで完結する)</li> <li>・ワンスオンリー(一度提出した書類は、再度提出することを不要とする)</li> <li>・コネクテッド・ワンストップ(民間サービスを含め、複数の手続き・サービスをワンストップで実現する)</li> </ul>	<p>市長 教育長</p>

## 2 個人情報・パーソナルデータに関して

AIやビッグデータの活用による効率化を求めると、個人情報の取り扱いに関して、「個人情報保護法制 2000 個問題」が出てきて弊害となると思います。

具体的な問題を抽出して述べますと、新型コロナウイルス感染症対策において、国の行政機関と自治体間でのデータ連携の弊害もその一つであると思います。デジタル化の遅れに繋がっているこの問題について、基礎自治体として条例改正などを含めた認識と対応を問います。

## 3 オープンデータの活用に関して

「誰もが利用できる」、「再利用・再配布ができる」、「機械判読できる」、「無償で利用できる」データをオープンデータと呼び、具体的な活用例でいうとスマートフォンなどに搭載されている公共交通機関等のルート検索などの「グーグルマップ」もその一つです。最近では、今いる場所、時間帯から最適な時刻表も掲示してくれ、便利なものというのはあまり意識されずに当たり前ものになってしまっていますが、これも技術のもたらす恩恵です。

それではそのようなデータを活用し、何を行うのかという点について、今回は「ごみ収集」を具体的なテーマに挙げ、データ活用が及ぼす影響と可能性に触れたいと思います。

この質問に関しては今回の質問の大枠である「デジタル」という部分から乖離する内容もありますが、ご理解ください。

神奈川県座間市はごみ収集車の各車両に取り付けたタブレットからのデータを活用し、ごみ収集業務における効率化や燃料費の圧縮と、さらには市民サービスの向上につなげようとしています。本市においても利点はあると認識しますが考えを問います。

また、本市では過去に否決された経緯もある、ごみ収集の有料化に関して、この時代だからこそ再度検討する必要があるのではないかと感じます。その観点から県内でのごみ収集の有料化に取り組んでいる自治体の動向をどのように認識し、迫る最終処分場の期限到来に向けての準備や費用の捻出など、今後のビジョンをいかに持っているのか問います。

## 4 日常業務のデジタル化の現状とこれからについて

本市も一部 RPA・AI-OCR 等を活用した業務のデジタル化が始まりましたが、そこに至るまでの経緯や課題と、これからより一層求められるデジタル化に必要な背景について問います。

総合行政ネットワーク(LGWAN)は、地方公共団体を相互に接続する行政専用のネットワークですが、本市でも在宅ワークにおけるの実証実験が行われています。在宅ならではのワークライフバランスへの影響や、在宅に特化した業務等の状況把握など職員からの情報収集が今後の組織のデジタル化の在り方にはとても重要だと感じますが、検証などについての考えや生かし方を問います。

また、政府では、地方創生を人材面から支援するため、市町村への人材派遣を支援する「地方創生人材支援制度」のマッチング事業に取り組んでいます。本市でのこの制度への取り組みと現状の認識を伺います。

また、デジタルを生かせる組織づくりへの対策への意識についてですが、デジタル化での制度改革・業務改革を行う上で、既存のアナログ型組織から体制をどう再構築し、担当者がパソコンとインターネットの職員サポート的なお守り役にならない IT 系組織にどうシフトしていくのか伺います。

#### 5 教育現場でのデジタル化の影響について

デジタルドリルや、すでに着手されているプログラミング教育ですが、デジタルを学ぶためのタブレットや PC といった機器の取り扱いについての児童生徒の理解度について伺います。併せてセキュリティ対策や接続環境など各戸で状況の差異等の課題に対しての現状を伺います。

また、政府のスマートシティ関連事業に選定されている、延岡市の「未来技術社会実装事業」内容の一つである、(仮称)延岡こども未来創造機構が目指す「人間力をはぐくむ」取り組みの中でのプログラミング教育の先にあると言われている STEAM 教育についての見解も併せてお願いします。

#### 6 先端技術の活用について

通信技術の向上による 5G への進化や、MaaS(複数の公共交通機関等の移動サービスを最適に組み合わせる検索、予約、決済などを一括で行うサービス)を活用した移動手段の再定義、NFT(非代替性トークン)やメタバース(オンライン上に構築された仮想空間)と言ったデジタル空間での人の存在意義などの、先端技術がもたらす恩恵はまだまだ未知であります。私個人としてはインフラや農林水産、観光、育児、介護、防災、人口増や移住など多岐にわたる市民サービスの向上につながるものと期待しています。

また、これらの技術を用い国や企業も新たな価値を見だし参入が始まっているところです。メタバースや NFT とまではいきませんが、身近な例えで言うと、本市でも県の実証実験の一環として「ローカル 5G」を活用し地域の課題解決を図るバーチャルショップ(仮想店舗)が展開されていますが、このような先端技術を活用した行政運営の可能性やビジョンを伺います。





日向市議会議長 黒木 高広 様

[10番] 日向市議会議員

富井 寿



発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 10番

内容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>1 市政の基本方針について</p> <p>コロナ禍による地域経済への影響が長期化している中、歳入の根幹となる市税等は、令和3年度に比べて増加を見込んでいるものの、コロナ禍前の水準までは戻っておらず、今後の状況は不透明であり、一般財源をいかに確保していくかが大きな課題です。そのような中で、令和4年度の予算編成がなされています。</p> <p>そこで以下のことを伺います。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの日常に大きな変化をもたらしています。この経験を生かして難局を乗り越えていきたいと市長も述べたが、どのように乗り越え、市民が安全・安心して生活できるまちへ導きたいのか改めて認識を伺います。</p> <p>(2) 令和4年度の予算編成において、市長が最も大事にしたことは何か伺います。</p> <p>(3) 「第2向日向市総合計画・後期基本計画」の初年度を終えて見えてきた課題と手ごたえについて伺います。</p> <p>(4) コロナ禍でさまざまな活動は中止となり、人とのつながりもさらに希薄化しています。市長は「人づくり」を市長就任以来、最優先の課題として掲げているが、現状をどう把握し認識しているか伺います。</p> <p>(5) 一般財源確保が最重要課題である中、「稼げるまちづくり」に向けた動きと状況について伺います。</p> <p>(6) コロナ禍で影響を受けたさまざまな業種に向け、令和4年1月に「新型コロナウイルス感染症による影響」に関するアンケート調査が実施されています。このアンケート結果を踏まえ、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策支援室が打つべき対策は何か伺います。</p>	<p>市長</p>

## 2 教育現場の実情について

コロナ禍により、当たり前だった通学や授業など学校の教育環境は大きく変化したと感じています。

そこで以下のことを伺います。

- (1) 約2年が経過し、コロナ禍での業務対応は慣れつつあるものの、学校ICT環境の整備などの新たな業務により教職員の負担は増えていると聞きます。現状と対応について伺います。
- (2) コロナ禍による子どもたちの不安感やストレス感はこの2年間で変化してきているのか現状を伺います。

## 3 同性パートナーシップ制度導入について

2015年、東京都渋谷区と世田谷区から始まった同性パートナーシップ制度は、現在、全国各自治体が導入する動きへと広がっています。県内でも宮崎市、延岡市、日南市、えびの市、新富町、木城町が導入しており、同制度を導入する自治体が徐々に増えてきている現状にあります。

本市においてはLGBTへの理解と支援の象徴であるレインボーフラッグ設置や、職員研修など積極的に取り組まが行われていますが、同性パートナーシップ制度導入には至っていません。そこで同制度の導入について市長の考えを伺います。

市長  
教育長

市長





### 発言（一般質問） 通告書

令和4年第1回日向市議会定例会において、下記のとおり一般質問をいたしますので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

質問順位 11 番

内容（具体的な質問事項）	答弁を求める者
<p>新型コロナウイルス感染症拡大の中、日々、日向市民の命と健康を守り、安全安心な市民生活維持のために奮闘されている日向市長、市職員の皆様に敬意を表しながら、現状と課題を認識・共有することを通して、この未曾有の危機を共に乗り越えるために努力したいと言う決意と立場から質問したい。</p> <p>1. 市政の基本方針に関わって</p> <p>市長は、今年の「市政の基本方針」で、国の動向として「新しい資本主義」の実現に向けた成長戦略を上げられている。「新しい資本主義」は、岸田首相が「市場に依存しすぎたことで格差や貧困が拡大した」ことで、いわゆる新自由主義の弊害を「資本主義の中に埋め込む」（以上は、岸田首相「文藝春秋」2月号寄稿文より）として上げている言葉である。しかし、その中身は、少しも新しいものではなく、雇用、社会保障、税制のどれをとっても破綻した新自由主義の継続そのものに私には思える。</p> <p>また、G I G Aスクール構想の推進をさらに進めるとある。そもそもG I G Aスクール構想は、2019年12月「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」の一環として登場した。最初は、「教育施策」（文部科学省）よりも「経済施策」（経済産業省）の要求であった。しかし、その後のコロナ禍において、G I G Aスクール構想の推進が一気に熱を帯びた。本来は、学校や教育内容から、デジタル端末を日常の授業・学習でどのように活かしていくのかが、丁寧に議論・準備されて実施されることが、G I G Aスクール構想には必要であった。しかし、「経済施策」（経済産業省）の要求で始まり、コロナ禍の中でその推進が急がされたこともあり、丁寧に議論・準備されて実施されることが難しかった。ここに、学校と教育のG I G Aスクール構想の推進についての苦闘の理由・背景があると考えます。</p> <p>以上のことから、以下のことを問いたい。</p> <p>(1) 「新しい資本主義」についての評価は</p> <p>(2) G I G Aスクール構想の推進に関わる現状と課題は</p>	<p>市長 教育長</p>

2. 「一人ひとりが大切にされるまち日向市」の実現に関わって

(1) 「第6次日向市男女共同参画プラン」(以下「プラン」)について

- ①この「プラン」の意義、今後5年間の大きな柱や課題は
- ②この「プラン」の周知方法は
- ③政策決定への女性参加促進の取り組みは
- ④選択的夫婦別姓についての認識や取り組みは
- ⑤コロナ禍における「女性の貧困」～失業・生活不安、DV・ハラスメントの増加、女性の自殺急増、「生理の貧困(生理の尊厳)」、性教育の必要性、等々について、日向市の現状と取り組みは

(2) 「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に関わって

- ①日向市の現状と課題は
- ②今後の取り組みは

(3) 「笑顔で暮らせる地域社会づくり」に関わって

- ①「医療的ケア児支援法」についての取り組みの経過と今後の計画は
- ②「日向市・東臼杵郡医療的ケア連絡会」の取り組みの経過と今後の計画は
- ③「医療的ケア児支援法」についての取り組みを、日向市の基本政策にどのように位置づけるのか

市長  
教育長

